



〒113-0033 東京都文京区本郷2丁目37-6 稲毛屋ビル504  
日本神経科学学会

TEL: 03-3813-0272 FAX: 03-3813-0272  
E-mail: jnss@mb.newweb.ne.jp

## 第27回日本神経科学大会・第47回日本神経化学学会大会 合同大会参加登録開始

同封の「ご案内」にありますように第27回日本神経科学大会と第47回日本神経化学学会大会との合同大会(Neuro2004)の参加登録、演題申し込みの受付を開始しました。下記のサイトにアクセスをお願いします。

<http://www.congre.co.jp/neuro2004/>

大会のプログラム等につきましても決まり次第このサイトにアップロードする予定です。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

## 第64回日本神経科学学会理事会報告

日時、2004年1月30日(金)17時 20時、場所、学士会館赤門分館

出席、小幡 邦彦 会長、津本 忠治 庶務理事、水野 昇 会計理事、村上 富士夫 広報担当理事(第27回大会大会長)、伊佐 正 理事、大隈 典子 理事、岡野 栄之 理事、辻 省次 理事、御子柴 克彦 理事、三品 昌美 理事、宮下 保司 理事(第28回大会大会長)、岡本 仁 IBRO-APRC 理事

欠席、金澤 一郎 理事、川人 光男 理事、柴崎 浩 理事、丹治 順 理事、遠山 正彌 理事、中西 重忠 理事、西野 仁雄 理事(第26回大会大会長)、廣川 信隆 理事

### 目 次

第27回日本神経科学大会・第47回日本神経化学学会大会合同大会参加登録開始	1
第64回日本神経科学学会理事会報告	1
時実利彦記念賞候補者の募集	7
シンポジウム・研究会のお知らせ	7
研究助成	13
公募	14
その他	18
編集後記	19

## 報告事項:

1. 庶務報告(津本庶務理事): 会員構成の状況を報告(資料1 - 1、新入会員名は資料1 - 2参照)。会員総数は昨年の第26回大会後は横ばいであるが、第27回大会を機にさらに増えることを期待している。
2. 会計報告(水野会計理事):2003年度の決算が報告され承認された(資料2)。
3. 会報編集報告(村上会報編集理事)会報編集は順調に推移している、との報告があった。
4. 委員会報告
  - 1) 欠席の丹治動物実験委員会委員長に代わり伊佐理事よりサルに関する文部科学省の「ナショナルバイオリソース計画」について説明があり、学会として動物実験委員会の活動を引き続きバックアップすることが確認された。
  - 2) 時実利彦記念脳研究助成基金について小幡同基金運営委員長より平成15年度の報告と今年度の候補者推薦の依頼がなされた。
  - 3) 神経科学学会研究奨励賞について平成16年度の予定に関する報告と候補者推薦依頼が小幡会長よりなされた。
  - 4) 各種研究助成のための候補者推薦について小幡会長より報告があった。
  - 5) 本学会の法律顧問として西村寿男弁護士と法律顧問契約書を交わしたことについて小幡会長より報告があった。
  - 6) 本学会の事務所を開設したこととともない財団法人日本学会事務センターに委託する業務は主に会費の徴収だけとなるが、このような現状を踏まえて同センターと業務委託費に関して交渉したことについて小幡会長より報告がなされた(審議事項4参照)。
  - 7) 村上広報委員会委員長より同委員会で検討した入退会の手続き等を電子化する案について報告があった(審議事項4参照)。
5. 昨年開催された第26回大会の状況について欠席の西野大会長に代わり小幡会長より報告があった(神経科学ニュース2003年No.5, 11-13ページの西野大会長よりの報告記事参照)。
6. 第27回大会の準備状況に関して村上富士夫大会長より報告があった(大会案内は本ニュース発送時に同

封の予定)。

7. 第28回大会の準備状況に関して宮下保司大会長より報告があった(本ニュース2004年No.1,3ページの宮下大会長よりの報告記事参照)。
8. Neuroscience Research(NSR)の編集状況等について津本編集主幹より以下の報告があった。
  - 1) 2003年初めより電子投稿が可能となった。そのためもあり、投稿数が増え2003年は計262編に達した(一昨年は173篇、昨年は245篇)。特に、海外よりの投稿が増加し、全体の58%となり国内からの投稿と比率が逆転した。また、電子投稿は全体の約7割に達しているが、郵便による投稿もかなり存在するので当面は郵送投稿も残す方針である。
  - 2) 採択率は2002年は約60%であったが、投稿数の増加や質のさらなる向上を目指す編集委員会の方針もあり、2003年は49%と5割を切った。
  - 3) 2003年は投稿数の増加もあり発行ページ数が1516ページと2001年の1221ページ、2002年の1234ページより大幅に増加した。本年も2003年並みのページ数を見込んでいる。
  - 4) 2003年度のNSRの会計は科研費補助金を計画どおりいただいたため順調であったが、冊子体の購読者数減少という問題が顕著となり、その克服に努力している。
  - 5) Impact Factor等NSRのvisibilityをさらに上げるために2001及び2002年に出た全論文の被引用状況を編集幹事会で検討したが、UpdateやReview Articleの被引用回数が特に高いのでUpdateやReview Articleの著者をさらに募ることにした。
9. IBROについて岡本均IBRO Asia-Pacific Regional Committee (APRC) 理事より報告があった。また、津本 Federation of Asia-Oceanian Neuroscience Societies (FAONS)財務理事より本年5月17日から19日までイランのテヘランで開催される第2回FOANSシンポジウムについて説明があった。
10. 各種学術集会等に対して協賛・後援を行った旨津本庶務理事より報告があった。

## 審議事項:

1. 平成16年度予算案について、水野会計理事より説

明があり、審議の結果予算案を承認した(資料3参照)。

2. 柴崎浩理事より米国NIHに赴任したため理事を辞任したい旨の申し出があったことが小幡会長より報告された。審議の結果、辞任を承認し、任期が1年弱しか残されていないのでその後任を決めないこととした。岡本仁IBRO-APRC理事を国際理事(会則第8条による)に選任することが小幡会長より提案され、審議の結果承認された。本学会のIBRO-APRCへの関与を強めるため、岡本理事の活動を支援することが確認された。

3. 現理事の任期は本年12月末までであるため、改選の日程上、次回の理事会(9月20日の予定)の前から候補者の自薦・他薦の手続きを始めることが了承された。

4. 会費の徴収等、財団法人日本学会事務センターに委託する業務に関して同センターと交わした覚書を承認した。また、入退会の手続きを電子化する広報委員会案(本ニュース2004年No.1, 20-21ページのお知らせ参照)を審議の結果、同案を承認した。

5. 日本学術会議脳・神経学研究連絡委員会より平成17年度科学研究費補助金の神経科学、情報学の一部細目につき審査委員として適切な研究者情報の提供依頼があり(従来の審査委員候補者の推薦依頼が変更されたもの)、指名委員会が一リストアップした候補者リストを審議の結果承認した(ご本人に連絡し了承いただいた方を最終候補者として本会正会員による選挙を行う予定)。

6. NSRに関するElsevierとの契約が本年12月末で切れるため契約更改小委員会が次期契約について検討し本学会の要求をまとめた。この要求に基づいて津本編集主幹と川人理事がElsevierとの交渉にあたった。その結果、Elsevier側から返答があったが一部了承できない部分があり再度の要求を出した。その結果、ほぼ妥協可能と思われる返答が再度あったので、契約更改小委員会、さらに執行委員会で詳細に検討し了承された。この案に関して津本編集主幹より説明があり、審議の結果承認された。なお、契約書の表現の部分的な変更等は小幡会長と津本編集主幹に一任された。新契約の骨子は契約ページ数を

1500ページと大幅に増やしたこと(現在は約1100ページ)、電子版アクセス料を6000人まで定額としたこと(現在は一人1500円と会員が増えれば支出が増加するシステム)、収入となるLoyaltyの対象として冊子体の販売数だけではなく電子版のヒット数も勘案させたこと等、現契約から大幅な変更があり、結果としてかなりの経費削減が見込めると判断された。

7. 第27、28回大会への財政支援に関して審議し、大会への補助金を増額すること、市民公開講座の費用(科研費の研究成果公開促進費が得られた場合は学会からの援助を返上)とアジア諸国若手研究者へのTravel Awardは学会が負担すること、及び大会プログラム・アブストラクトのCD-ROMは学会で費用を出して作製し、全会員に送付するようにすることとした。

8. 第29回大会は木村實京都府立医大教授を大会長とし、京都で開催する案を審議の結果承認した(会期は平成18年7月19日(水)-21日(金)、会場は京都国際会議場の予定)。

資料1-1

## 日本神経科学学会会員構成

(2004年1月26日)

	正会員	学生会員
1 分子・細胞神経科学	1844(12)	136(6)
2 システム神経科学	1389(6)	113(6)
3 臨床・病態神経科学	500(5)	14(1)
4 パネル不明	174	1
合計	3907(23)	264(13)
外国人会員	1	
賛助会員(1)	3	
賛助会員(2)	15	
名誉会員(名誉会長を含む)	9	
全会員数	4,199	

()内は新会員

退会 正会員 45名 学生会員 13名

移動 学生会員 正会員 241名

移動 正会員 学生会員 9名

- 資料1 - 2 松川 則之 名古屋市立大学大学院医学研究科  
神経病態学
- 新会員リスト  
正会員 合計 23人 森下 学 名古屋市立大学医学部神経内科
- パネル1、分子・細胞神経科学 (12人)
- 池田 啓子 自治医科大学分子病態治療研究センター細胞生物研究部 学生会員 合計 13人
- 市川 純 関西医科大学生理学第二講座 パネル1、分子・細胞神経科学 (6人)
- 木村 英雄 国立精神・神経センター神経研究所 稲垣 雅昭 名古屋市立大学医学部危機管理  
医学分野
- 草間 貞 日本大学薬学部機能形態学研究室 内田 穰 横浜市立大学医学部薬理学
- 篠原 良章 岡崎国立共同研究機構生理学研究所 久保 正文 和歌山ろう学校高等部
- 祖父江 和哉 名古屋市立大学大学院医学研究科危機管理医学 小久保 秀子 群馬大学医学部保健学科
- 中平 英子 国立精神・神経センター神経研究所 微生物構造研究部 高鶴 裕介 群馬大学大学院医学系研究科医科学専  
攻神経生理学
- 東島 真一 岡崎国立共同研究機構統合バイオサイエンスセンター 柳田 剛 大阪大学大学院医学系研究科未来  
医療開発専攻
- 益子 崇 日本大学薬学部機能形態学研究室 パネル2、システム神経科学 (6人)
- 柚崎 通介 慶應義塾大学医学部 生理学 赤谷 順子 山口大学大学院連合獣医学研究科
- 横井 峰人 京都大学大学院医学研究科先端領域融合医学研究機構 岡 達郎 島根大学医学部解剖学講座(神経形態学)
- Zhu Yan 大阪大学大学院生命機能研究科脳神経工学講座 古賀 さとみ 久留米大学医学部生理学第二講座
- パネル2、システム神経科学 (6人)
- 飯島 敏夫 東北大学大学院生命科学研究科 笹川 快生 群馬大学大学院医学系研究科医科学  
専攻
- 岩田 恵理 東京大学大学院農学生命科学研究科獣医動物行動学研究室 平井 真洋 東京大学大学院総合文化研究科
- 木下 博之 兵庫医科大学法医学教室 福島 宏器 東京大学大学院総合文化研究科
- 鈴木 正彦 埼玉医科大学薬理学教室
- 星野 修 大分大学工学部福祉環境工学科
- PAN XIAOCHUAN 玉川大学学術研究所脳科学研究施設
- パネル3、臨床・病態神経科学 (5人)
- 柿田 明美 新潟大学脳研究所生命科学リソース研究センター
- 神田 佳恵 名古屋市立大学大学院医学研究科神経機能回復学
- 松尾 善美 大阪大学医学部附属病院 理学療法部

## 2003年度日本神経科学学会会計

(2003年1月1日～2003年12月31日)

		予算	決算	備考
収 入	前年度繰越金	6,409,404	6,409,404	
	会員入会金	900,000	1,092,000	2003年入会者数359名
	正会員年会費	21,658,000	21,504,800	2004年1月現在正会員数3901
	学生会費	1,225,500	1,466,850	2004年1月現在学生会員数260名
	前受会費	0	254,650	
	賛助会員年会費3万	81,000	120,000	2004年1月現在現在会員数3件
	賛助会員年会費10万	1,440,000	1,400,000	2004年1月現在現在会員数15件
	預金利息	500	20	
	広告料	1,050,000	1,100,000	
	雑収入 その他		554,610	*
		1,000,000	成茂科学より寄付	
収入計		32,764,404	34,902,334	
支 出	IBRO分担金	520,000	437,400	2003年度分担金4,000 \$
	FAONS分担金	962,000	0	2004年1月21日送金手続き済み
	会報印刷費	1,800,000	1,627,804	2002年NO6, 2003年No1～No5
	理事会会合費	200,000	52,560	
	委員会会合費	200,000	214,499	
	旅費・交通費	700,000	571,420	
	事務員経費	3,600,000	3,136,000	
	印刷費	250,000	258,441	
	通信費	6,500,000	5,296,964	
	消耗品費	50,000	18,647	
	備品	500,000	456,357	ノートパソコン,事務局事務器等
	NSR補助金	2,500,000	2,500,000	
	学術大会補助金	2,000,000	2,000,000	
	ワークショップ補助金	200,000	200,000	生理研トレーニングコース
	事務センター業務委託費	6,000,000	5,409,054	
	事業費積立金	250,000	250,000	
	事務局経費	1,500,000	1,834,177	光熱費等及び、賃貸契約費等含む
	NSR優秀論文賞	600,000	600,000	
	日本神経科学学会奨励賞	400,000	200,000	
	名簿作成費	3,000,000	2,674,518	
講師派遣費	100,000	0	FAONS&IBRO	
その他		1,109,949	**	
予備費	932,404	6,054,544		
支出計		32,764,404	34,902,334	
* 会員データ加工料金92400円、予稿集データ利用許諾金454,860円、貸し金庫返戻金7350円				
** 甲電、会員データ加工料金92400円、第27回大会へ貸し付け1,000,000円				
事業費積立金2004年1月現在8794642円				

## 2004年度日本神経科学学会予算案

(2004年1月1日～2004年12月31日)

		予算	備考
収 入	前年度繰越金	6,054,544	
	会員入会金	900,000	3000×300
	正会員年会費	28,917,000	9000×(3900+130-250)×0.85
	学生会費	1,225,500	3000×(260+170-30)×0.95
	賛助会員年会費3万	81,000	現在会員数 3件×0.9
	賛助会員年会費10万	1,350,000	現在会員数 15件×0.9
	預金利息	10	
	広告料	1,050,000	175000×6
	返済金	1,000,000	第27回大会より
収入計		40,578,054	
支 出	1,事業費		
	ニュース印刷費	1,800,000	30万×6
	ニュース発送費	3,300,000	55万×6
	大会補助金	2,000,000	
	NSR補助金	2,500,000	
	奨励賞賞金	400,000	
	優秀論文賞賞金	600,000	
	Travel Award賞金	1,000,000	
	会費分担金	2,340,000	*
	学術活動支援費	700,000	生理研トレーニングコース、市民公開講座
	国際交流費	100,000	講師派遣、IBRO関係理事会出席
	調査宣伝費	350,000	弁護士顧問料、その他
	会員選挙経費	2,000,000	科研費審査委員、理事選挙(印刷費、発送費)
	2,管理費		
	事務センター業務委託費	4,500,000	
	事務員業務委託費	4,000,000	
	会議費	500,000	理事会、その他委員会会議費
	通信費	1,900,000	
	旅費・交通費	700,000	
	印刷費	500,000	
	備品・消耗品費	350,000	
	家賃	1,200,000	
	水道電話光熱費	300,000	
設備費	600,000	FAXコピー機レンタル料・ネット接続料等	
雑費	300,000		
3,その他			
事業費積立金	250,000		
予備費	8,388,054		
支出計		40,578,054	

\* IBRO(4.000\$), FAONS(2003年,2004年度分担金2\$×正会員数),  
生物科学学会連合(平成13年～16年度)

## 時実利彦記念賞候補者の募集

本学会では公益信託時実利彦記念脳研究助成基金の委託により、毎年、時実利彦記念賞受賞者を選考して、神経科学大会において授賞し（賞状および副賞 100 万円）、受賞者による記念講演を行っています。資格は脳神経系の統合機能及びこれに関連した生体の統合機能の解明に意義ある研究を行った 55 歳以下の研究者で、これまで以下の方が受賞しておられます。本年度の募集を本ニュース 1 月号 17 ページに掲載しています。締め切り期限は 4 月 12 日ですので、ふるってご応募下さい。

申請用紙申し込み先(80 円切手貼付の返信用定型封筒を添えて下さい):

〒 100-8212 東京都千代田区丸の内 1-4-5 三菱信託銀行個人資産部

公益信託時実利彦記念脳研究助成基金事務局（小林幸男）電話 03-3212-1211（内線）3398

受賞者:

平成 11 年度 彦坂興秀 (特別賞)小野武年  
 12 年度 宮下保司 (特別賞)丹治 順  
 13 年度 川人光男、木村 實  
 (特別賞) 岩田 誠  
 14 年度 田中啓治  
 15 年度 下條信輔

## INFORMATION

## シンポジウム・研究会



### 国際学術集会のお知らせ 第 14 回嗅覚・味覚国際 シンポジウム

(The 14 th International Symposium on Olfaction and Taste (ISOT))

主催:日本味と匂学会(JASTS)、嗅覚・味覚国際委員会(ICOT)

後援:米国化学感覚学会(ACChemS)

ヨーロッパ化学感覚連合 (ECRO)

オーストラリア化学感覚学会 (AACSS)

日時:平成 16 年 7 月 5 日(月)~ 7 月 9 日(金)の 5 日間

会場:国立京都国際会館(京都市左京区宝ヶ池)

趣旨:本シンポジウムは、1962 年に第 1 回がストックホルムで開催されて以来、3 - 4 年間隔で、アメリカ、ヨーロッパ、日本において順次開催される国際会議です。嗅覚と味覚に関わる化学感覚のメカニズムを解明することを目的として、方法論を異にする多分野の研究者が世界各国から一堂に会し、化学感覚に関するさまざまなトピックスについて分子レベルから個体レ

ベルまで、今回は 26 のシンポジウムセッションにて幅広く討論を行います。ポスター発表も募集します。このシンポジウムは、2004 年度日本味と匂学会第 38 回大会と合同開催となります。

シンポジウムセッション(予定)

7 月 6 日(火)

Taste sensor and electronic nose

Candidate receptors and signal transduction mechanisms for umami taste

Current topics in the development and regeneration of the olfactory and vomeronasal systems

Trigeminal sensation

Molecular aspects of mammalian taste signalling

Neurogenesis in the adult olfactory bulb

Learning and memory of chemical senses

7 月 7 日(水)

Odor maps

Development and regeneration of the gustatory system

Molecular and cellular basis of the gustatory and chemosensory function in insects

Effects of green leaf odor, hexenal, on fatigue and stress induced impairments of

physiological functions  
 Perceptual and cognitive process by brain  
 image and psychophysical approaches  
 Development and lineage of taste bud  
 Specificity and generality in olfaction: Insect  
 olfactory systems as brain sciences  
 Chemoreception in aquatic organisms

7月8日(木)

Dendritic processing of olfactory signals  
 Sensory transduction in peripheral gustatory  
 system  
 Behavioral switching by chemical senses in  
 insects  
 Neural and behavioral aspects of taste  
 palatability

7月9日(金)

Clinical investigation in olfaction and taste  
 Communication via olfaction  
 Neural and molecular basis for feeding and  
 nutrition  
 Structure-function relationship of sweet  
 tastants and modifiers  
 Flavor and fragrance approached by science of  
 human behavior  
 Molecular genetic approach to olfaction  
 Gustatory central nervous system  
 Neural and behavioral responses in higher  
 centers of olfaction and taste

7月5日に Gordon M.Shepherd (Yale  
 Univ.USA), Gary K.Beauchamp (Monell Chem.  
 Sens. Ctr.USA)による基調講演。

シンポジウムの演題募集は行いませんが、ポス  
 ター発表を募集します

要旨原稿締め切り:平成 16年 3月 10日

参加受付、参加費払い込み、要旨原稿受付は、  
 オンラインで行います。

大会参加受付ならびにプログラム等の詳細は日  
 本味と匂学会 Web Page をご覧ください。

<http://epn.hal.kagoshima-u.ac.jp/ISOT2004/>

使用言語 英語

参加登録費:一般 40,000 円、学生 15,000 円、4月  
 14日でオンライン受付を終了します。

大会期間中の受付も可能ですが、一般 50,000  
 円とさせていただきます。学生は 15,000 円で  
 す。

懇親会参加費:12,000 円(事前申し込み)、14,000 円  
 (当日参加)

大会会長:山本 隆 大阪大学大学院人間科学研究科行動生態学講座

連絡先:〒 606 - 8502 京都市左京区北白川追分  
 町

京都大学農学研究科食品生物科学専攻内  
 第 14 回嗅覚・味覚国際シンポジウム事務局  
 実行委員長 伏木 亨

(Tel. 075-753-6263, 6261, Fax. 075-753-6264)

E-mail: d53765@sakura.kudpc.kyoto-u.ac.jp



## 千里ライフサイエンス 技術講習会 第 35 回

### 「GFP を使った FRET イメージング 生きた細胞で情報伝播を可視化する」

日時:平成 16年 7月 8日(木)9:00 - 17:00

場所:千里ライフサイエンスセンタービル 6階(展  
 示場)

ねらい:細胞内情報伝達系の動態を生きた細胞で  
 観察するために、蛍光共鳴エネルギー移動  
 (FRET)を用いた画像化技術が開発されている。  
 本講習会では、培養細胞と緑色蛍光蛋白(GFP)を  
 用いた FRET イメージングに限定し、基本的な  
 分子生物学の技術があればすぐ応用できる実戦  
 的技術の伝授を目指す。

コーディネータ:松田 道行 大阪大学微生物病  
 研究所 腫瘍ウイルス分野 教授

プログラム:

技術解説:G F P を使った F R E T 実験 原理と  
 コツ

実習 1:F R E T イメージング中の細胞培養法の  
 注意点と、立体画像の構築法。

実習 2:F R E T 画像の処理法とマクロの上手な  
 使い方。

実習 3:二分子 F R E T 法の利点と限界。

## 講師:

松田 道行(大阪大学微生物病研究所 腫瘍ウイルス分野 教授)

中村 岳史(大阪大学微生物病研究所 腫瘍ウイルス分野 講師)

大場 雄介(大阪大学微生物病研究所 腫瘍ウイルス分野 助手)

黒川 量雄(大阪大学微生物病研究所 腫瘍ウイルス分野 助手)

参加費:5,000 円

定員:30 名

参加者資格:分子生物学ならびに蛍光顕微鏡に関する基礎知識を有していること。

申込方法:参加申し込みは以下の手順にしたがって行ってください。

(1)氏名、勤務先、所属、役職名、〒、所在地、電話、FAX 番号および「現在行っている研究テーマ」を簡単に明記の上、郵便、FAX または E-mail で下記宛お申し込み下さい。

(2) 事務局より受付の通知を返送いたしますので、そこに記載した振込先口座に参加費をお振込みください。

(3) 入金を確認後、通常 1 週間以内に領収書兼参加証をお届けいたします。

申込締切:平成 16 年 5 月 31 日(財団必着)但し、定員を超過した場合は参加者の調整を行う場合があります。

申込先:(財)千里ライフサイエンス振興財団技術講習会 G35 係

〒 560-0082 大阪府豊中市新千里東町 1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル 8 階

TEL:06-6873-2001 FAX:06-6873-2002

E-mail:tnb-lsf@senri-lc.co.jp

(注:lsf は「エルエスエフ」、lc は「エルシー」)

URL:<http://www.senri-lc.co.jp>

主催:財団法人千里ライフサイエンス振興財団

協賛:オリンパス株式会社、日本モレキュラーデバイス株式会社(UIC グループ)、

横河電機株式会社、株式会社千里ライフサイエンスセンター



International Narcotics  
Research Conference  
2004 / Kyoto

(国際麻薬研究会議 2004 年・京都)

会期:2004 年 7 月 18 日(日) ~ 23 日(金)

会場:京都パークホテル(京都市東山区三十三間堂廻り町 664-2)

主催: INRC2004/Kyoto 組織委員会

特別講演

中西 重忠(京大医)

Nora Volkow(NIDA)

Barry Everitt(ケンブリッジ大)

招待講演

Brigitte L. Kieffer(フランス) オピオイド受容体遺伝子発見者

Jean-Claude Meunier (フランス) ノシセプチン発見者

Abba J. Kastin (アメリカ) エンドモルフィン発見者

トピックス

HIV とオピオイド、神経新生、神経栄養因子との cross-talk、難治性疼痛とオピオイド鎮痛、薬物依存間の Cross-talk、オピオイド依存と神経回路可塑性、オピオイド受容体トラフィック、遺伝子制御とヒトゲノム研究、新規オピオイド化合物、血液 脳関門とペプチド輸送、うつ・不安とオピオイド、遺伝子改変動物とオピオイド依存

登録費:

事前登録(2004 年 4 月 30 日まで) 45,000 円

当日登録(2004 年 5 月 1 日以降) 50,000 円

学生 25,000 円

問合せ:

INRC2004/Kyoto 事務局

Tel: 075-315-8697 Fax: 075-314-2968 e-mail:

[inrc@krp.co.jp](mailto:inrc@krp.co.jp)

〒 600-8813 京都市下京区中堂寺南町 134 京都リサーチパーク(株)コンベンションチーム

<http://www.krp.co.jp/inrc>



生理学研究所  
生理科学実験技術  
トレーニングコースの  
お知らせ

生理学研究所では、「分子・細胞レベルから個体レベルに至るまで人体の機能を総合的に解明する」ことを目標に研究を進めています。毎年夏期に、生理学分野に関心を持つ大学学部学生・大学院生、若手研究者を対象とした実習形式のトレーニングコースを開催しています。実習では第一線で活躍している研究者の指導を直接受け、最新の実験の技術を学ぶことができます。詳細、参加申込方法などは下記ホームページをご覧ください。熱意・意欲ある方の応募をお待ちしています。

日程: 2004年7月26日(月)～7月30日(金)  
場所: 岡崎国立共同研究機構(4月からは自然科学研究機構)生理学研究所(愛知県岡崎市)

講演

『脳細胞の活動からみる視知覚のしくみ』小松英彦(生理学研究所)

実習テーマ

- 1, 電子位相顕微鏡法
- 2, 免疫組織化学法
- 3, 免疫電子顕微鏡法
- 4, 超高压電子顕微鏡による生物試料の立体観察
- 5, 神経幹細胞・前駆細胞の基本的な取り扱い
- 6, ジェンターゲティング法
- 7, アフリカツメカエル卵母細胞を発現系として用いた膜タンパク質の機能解析
- 8, パッチクランプ実験解析法の基本とその応用
- 9, スライスパッチクランプ(基礎コース)
- 10, スライスパッチクランプ(応用コース)
- 11, 神経性代謝調節研究法入門
- 12, 麻酔下動物での電気生理学実験
- 13, 慢性動物実験法入門
- 14, 電気生理学及び心理物理学的手法による視知覚メカニズムの解析
- 15, 脳磁図計測、解析の基礎
- 16, 脳機能画像解析入門

17, 生理学実験のための電気回路・機械工作

受講料:10,200 円(予定)  
申込方法:ホームページ上にてオンライン受付  
(<http://www.nips.ac.jp/training/>)  
申込期間:2004年4月21日(水)～6月4日(金)  
共催:日本生理学会, 日本神経科学学会  
連絡先 e-mail: [training@nips.ac.jp](mailto:training@nips.ac.jp)  
募集人員:約 150 名



2nd International  
Conference on Working  
Memory - Behavioural  
and Neural Correlates -  
(第2回国際ワーキングメモリ会議)

日時:平成 16年8月17日(火)～20日(金)  
場所:京都国際会館(京都市北区宝ヶ池)  
参加登録料: 一般 24000 円 学生 12000 円  
発表形式: 口頭発表またはポスター発表  
演題申し込みの締め切り:平成 16年2月29日  
使用言語: 英語

招待講演者:

Alan Baddeley, Pierre Barrouillet/Valerie Camos, Susan Courtney, Nelson Cowan, Meredyth Daneman, Mark D'Esposito, Shintaro Funahashi, Graeme Halford, Marcia Johnson, Michael Kane, Stephen Lewandowsky, Robert Logie, Randi Martin, Akira Miyake, Ian Neath/Aimee Surprenant, Lars Nyberg, Klaus Oberauer, Mariko Osaka, Naoyuki Osaka, Mike Page/Dennis Norris, Michael Petrides, Brad Postle, Lynne Reder, Bart Rypma, Satoru Saito, Gerald Tehan, Andr・Vandierendonck, Paul Verhaeghen, Masataka Watanabe

主催者代表: 苧阪直行(京都大学大学院文学研究科心理学研究室)

問い合わせ先: [icwm2004@bun.kyoto-u.ac.jp](mailto:icwm2004@bun.kyoto-u.ac.jp)  
詳細・参加ならびに講演申し込み先ホームページ: <http://square.umin.ac.jp/jswm/>



## 第16回国際解剖学会議

英文名称: 16th International Congress of the IFAA

Anatomical Science 2004 -From Gene to Body-

会期: 2004年8月22日(日) ~ 27日(金)

会場: 国立京都国際会館

〒606-0001 京都市左京区宝ヶ池

Tel: 075-705-1234 (<http://www.kich.or.jp/>)

学術プログラム(予定)

一般講演 (口演・ポスター)

Opening Lecture

Kai Simons (Germany) Lipid rafts in membrane sorting and trafficking

Plenary Lectures

Mario R. Capecchi (U.S.A.) From genes to mammalian body plan

Mark H. Ellisman (U.S.A.) Multiscale imaging of the nervous system

Tomas G. M. Heokfelt (Sweden) Neurobiology thanks to chemical neuroanatomy

Masao Ito (Japan) Learning and memory in the cerebellum

Masatoshi Takeichi (Japan) Regulation of dynamic cell assembly by catenin-cytoskeletal interactions

Samuel Weiss (Canada) Adult forebrain neural stem cells: From basic biology to brain repair

Presidential Lecture

Nobutaka Hirokawa (Japan) Frontier research in structural life science; Molecular motors, KIFs and mechanism of intracellular transport

David B. Thomas (U.K.) Stem cell replacement therapy; the dream becomes reality

Special Lectures

James R. Bamberg (U.S.A.) Supply and demand: Regulating actin synthesis and delivery during cell polarization

Sa Sun Cho (Korea) Expression and putative role of transferrin binding protein: In the avian central nervous system

Yoshinori Fujiyoshi (Japan) Structure and function of channels observed through an electron beam

Sumio Iijima (Japan) Carbon nanotubes and their application to biotechnology

Gong Ju (China) A hypothesis of neural-humoral dual regulation of the mammalian anterior pituitary

Hisatake Kondo (Japan) Visualization of mRNA translation sites by in-situ hybridization, and its newly developed questions and prospects

Arthur D. Loewy (U.S.A.) Central autonomic circuits: New insights

Shigekazu Nagata (Japan) Apoptosis and phagocytosis

Shigetada Nakanishi (Japan) Regulatory mechanisms of synaptic transmission in the neural circuit

Yoshinori Ohsumi (Japan) Progress in molecular mechanism of autophagy

Ronald W. Oppenheim (U.S.A.) Regulation of motoneuron development and survival during embryogenesis

Clifford B. Saper (U.S.A.) The hypothalamo integrator for circadian rhythms

Yosaburo Shibata (Japan) Molecular anatomy of gap junction diversity

Kohei Shiota (Japan) 3D visualization of staged human embryos and its application to biomedical research and education

Peter Somogyi (U.K.) From Cajal's diversity of neuronal form to action potential timing in the cerebral cortex

Shoichiro Tsukita (Japan) The claudin family: A key player in the barrier function of epithelium/endothelium in multicellular organisms

Toshio Yanagida (Japan) Single molecule nano-bioscience

Symposia and Workshops 64

Evening Sessions 7

### 演題募集

演題申込は、UMIN(大学病院医療情報ネットワーク)のご協力を得てインターネットによるオンライン申込を行います。なお、諸事情によりオンライン登録が不都合・不可能な方は、下記演題登録事務局までE-mailもしくはファックスにてご連絡くださいますようお願いいたします。

- (1)募集演題 一般演題(口演およびポスター発表)  
 (2)申込期間 オンライン:2003年12月20日(木)  
 ~ 2004年3月2日(火) 午前11時  
 締切延長の可能性があります。  
 (3)申込 URL <http://www.ifaa2004.org/>

## 参加登録

事前登録締切:2004年6月22日(火)  
 参加申込は、インターネットによるオンライン  
 申込をホームページ(<http://www.ifaa2004.org>)  
 にて、ご案内しております。オンライン申込  
 が、不都合、不可能な場合には、ホームページ  
 より Registration Form をダウンロードしてい  
 ただき、ファックス又は郵送にて登録事務局ま  
 でお送り下さい。

	事前登録(6/22まで)	当日登録(6/22以降)
一般参加者	¥35,000	¥40,000
学生	¥20,000	¥25,000
同伴者	¥10,000	¥12,000

## 登録事務局

(株)ジェイコム コンベンション事業本部内  
 〒530-0001 大阪市北区梅田2-4-9 サンケイビル  
 本館7階  
 Tel: 06-6348-1391 Fax: 06-6456-4105  
 E-Mail: [ifaa2004@jtbc.com](mailto:ifaa2004@jtbc.com)  
 学会ホームページ: <http://www.ifaa2004.org>



International Academy  
 Nutrition and Aging  
 (IANA)

Symposium on Nutrition and  
 Alzheimer's Disease  
 IANA 栄養とアルツハイマー病  
 に関するシンポジウム

会期:2004年(平成16年)10月1-2日  
 会場:新高輪プリンスホテル(品川・東京)  
 会長:植木 彰  
 プログラム  
 10月1日(金)  
 オーバービュー  
 Vellas B (Toulouse)  
 シンポジウム1:抗酸化物とアルツハイマー病

Stahelin HB (Basel)  
 Ando S (Tokyo)  
 Morris MC (Chicago)  
 シンポジウム2: インスリン、糖尿病とアルツ  
 ハイマー病  
 Andrieu S (Toulouse)  
 Shimano H (Tsukuba)  
 Morley JE (Saint Louis)  
 Craft S (Seattle)  
 Kagawa Y (Saitama)  
 10月2日(土)  
 シンポジウム3: 魚油とアルツハイマー病  
 Hamazaki T (Toyama)  
 Andrieu S (Toulouse)  
 Morris MC (Chicago)  
 Ueki A (Saitama)

ホームページ: <http://www.ianajapan.com/>  
 参加登録、演題申し込み、宿泊の情報が得られ  
 ます。

一般演題申し込み締め切り:2004年5月31日(月)  
 事務局:自治医科大学附属大宮医療センター神経  
 内科  
 〒330-8503  
 埼玉県さいたま市大宮区天沼町1-847  
 FAX: 03-5216-5552 E-mail: [office@ianajapan.com](mailto:office@ianajapan.com)



第19回生体・生理工学  
 シンポジウム講演募集要項  
<http://www.osakac.ac.jp/bpes2004/>

主催・企画:計測自動制御学会 システム・情報  
 部門 生体・生理工学部会  
 協賛:映像情報メディア学会, 応用物理学会, シ  
 ステム制御情報学会, 情報処理学会, 人工知能  
 学会, 精密工学会, 電気学会, 電子情報通信学  
 会, 日本医科器械学会, 日本医療情報学会, 日  
 本エム・イー学会, 日本音響学会, 日本機械学  
 会, 日本神経回路学会, 日本神経科学学会, 日  
 本生体磁気学会, 日本生物物理学会, 日本生理  
 学会, 日本体育学会, 日本体力医学会, 日本  
 人間工学会, 日本リハビリテーション医学会, 日  
 本リハビリテーション工学協会, 日本臨床神経  
 生理学会, 日本ロボット学会, バイオメカニズ  
 ム学会, ライフサポート学会, Japan Chapter

of IEEE Engineering in Medicine and Biology Society

第19回生体・生理工学シンポジウムを下記の要領で開催いたします。奮って論文投稿、ならびにご参加をお願いいたします。

期日:2004年11月1日(月)~3日(水)

会場:大阪電気通信大学 四條畷学舎 (<http://www.osakac.ac.jp/>)

学術奨励賞:お知らせ SICE ホームページ <http://www.sice.or.jp/katsudou/award.html> ページをご覧ください。

研究奨励賞(部会):35歳以下の若手研究者を対象とした生体・生理工学シンポジウム研究奨励賞を設けます。奮ってご応募下さい。申込先などの詳細はホームページをご覧ください。研究奨励賞応募資格:(1)本学会会員であること(非学会員の場合は表彰時までに入会のこと)(2)講演時に35歳以下であること(3)講演者として申込かつ講演した者。

申込方法・著作権:SICE ホームページ [https://www.sice.or.jp/bukai\\_web\\_appli/sindex.html](https://www.sice.or.jp/bukai_web_appli/sindex.html) をご覧ください。申込締切:2004年6月18日(金)必着採択通知:2004年7月上旬(実行委員会で査読後、採否を決定いたします)講演時間:オーガナイズド・一般セッション共にオーラル発表とします。オーガナイズド・セッションは質疑を含め20分~30分とし、一般セッションは15分とします。なお、講演時間は演題数により変更する可能性があります。講演原稿:A4判4ページ以内。書式は採択通知と共にお送りします。申込演題名、発表者の変更はできません。

原稿締切:2004年8月27日(金)必着参加費:参加費には論文集代が含まれます(校費支払可能)。

#### 当日料金

主催・協賛学会員	非会員	学生	学生(論文集なし)
10,000円	12,000円	5,000円	2,000円

#### 事前割引料金(2004年10月1日(月)までのお申し込みの方)

主催・協賛学会員	非会員	学生	学生(論文集なし)
9,000円	11,000円	4,500円	2,000円

論文集:5,000円(校費支払可能)。

支払方法:SICE ホームページ <http://www.sice.or.jp/oshirase/info/sankahi.html>

をご覧ください。問合せ先:大阪電気通信大学工学部医療福祉工学科 吉田 正樹 / 電話 & FAX(072)876-5199 E-mail :

[bpes2004@isc.osakac.ac.jp](mailto:bpes2004@isc.osakac.ac.jp) Website: <http://www.osakac.ac.jp/bpes2004/> 学会事務局:部門協議会担当 / 電話(03)3814-4121, E-mail : [bumon@sice.or.jp](mailto:bumon@sice.or.jp)

## 研究助成

### 公益信託



### 成茂神経科学研究助成基金 2004年度応募者募集の お知らせ

当基金は、下記募集要項により本年度応募者を募集致します。

記

#### [募集要項]

##### 1. 助成対象

(1)神経科学の研究に対する研究費の補助、奨励金の交付。

助成金額:1件あたり30~50万円程度

(2)神経科学に関する海外の学会に参加・発表するための渡航費の補助

(対象 平成16年7月~平成17年6月までに開催される海外での学会)

助成金額:1件あたり10~20万円程度

(3)神経科学に関する講演会・研究集会等の開催、外国学者の招聘又は論文発表、図書の刊行等に対する費用の補助。

助成金額:1件あたり20~30万円程度

##### 2. 応募資格

(1)学部生・大学院生は対象外とする。

(2)若手研究者(40才以下)を優先する。

(3)申込は一人1対象項目とする。

3. 応募期限 2004年5月28日(必着)

##### 4. 応募要項請求先

応募要領及び申込書は、返信用封筒(長形3号、

80円切手)を同封の上、下記宛請求して下さい。  
 < 公益信託 成茂神経科学研究助成基金事務局 >  
 〒100-8212 東京都千代田区丸の内1-4-5  
 三菱信託銀行個人資産相談部  
 公益信託グループ

以上



(財)加藤記念  
 バイオサイエンス  
 研究振興財団  
 第16回加藤記念国際  
 交流助成について

〔第16回加藤記念国際交流助成募集要項〕

1. 助成対象者:平成16年4月1日から平成17年3月31日の期間に海外で開催されるバイオサイエンス分野の学会、シンポジウム等で研究発表を行う日本国内在住の研究者。
2. 申込資格: 応募締切日に35才以下の方(医学系の大学卒業者は37才以下の方)。
3. 助成内容: 所要経費の一部を援助する。
4. 助成金額: 総額750万円。
5. 援助件数: 30件程度(前期:20件程度、後期:10件程度)。
6. 応募方法: 当財団所定の申請用紙に必要事項を記入の上、当財団に直接申し込む。
7. 応募締切:  
 (1)前期:4/1 ~ 9/30の期間に発表される方は、平成16年5月31日。  
 (2)後期:10/1 ~ 翌年3/31の期間に発表される方は、平成16年8月31日。
8. 審査方法: 当財団の選考委員による審査の上、評議員会議長および理事長の承認を得て決定。
9. 申請書の請求先:下記あて「はがき」、「ファクシミリ」または「メール」にてご請求ください。
10. 助成を受けられた方はA4 1~2枚程度の報告書を提出して下さい。当財団の「財団年報」に掲載する予定です。
11. 助成が決定した場合、氏名、所属機関、研究テーマ、参加学会名等を財団年報、ホームページ等により公開いたします。ご了承下さい。

連絡先:(財)加藤記念バイオサイエンス研究振興財団

住所:〒194-8533 東京都町田市旭町3-6-6

電話:042-725-2576 FAX:042-722-8614

E-mail:kato.zaidan@kyowa.co.jp

担当:持田顕一

## 公 募



独立行政法人  
 放射線医学総合研究所  
 脳機能イメージング研究  
 ポスドク募集

【募集内容】

PET(ポジトロンエミッショントモグラフィー)を用いた生体関連分子(遺伝子、ペプチド、神経伝達物質、合成医薬品等)の高感度生体イメージング研究分野において、  
 (1) 放射性分子プローブの開発研究、  
 (2) 覚醒サル等の動物PETとマイクロダイアリシス法、電気生理学等を組み合わせた神経科学・神経薬理学複合的研究、  
 に参加していただける方をそれぞれ若干名募集します。研究の詳細は当ホームページ (<http://www.nirs.go.jp/seika/brain/index.htm>) をご参照ください。

【応募資格】

生命科学研究分野の博士課程修了者、もしくは博士課程修了相当の研究歴を有している者。分子プローブの開発に応募される方は、核酸やペプチドなどの高分子合成経験者を歓迎します。神経科学・神経薬理学複合的研究に参加希望の方は、生化学、神経薬理学分野で動物実験(特に行動実験)経験者あるいは覚醒サルの慢性神経生理実験経験者を歓迎します。

【採用期間、条件】

- 1)2004年4月以降1年毎の契約で継続有 2)待遇は放射線医学総合研究所の規定に準拠

【提出書類】

1)履歴書(写真貼付) 2)業績リスト、主要論文の別刷り 3)これまでの研究概要と今後の抱負(各1000字程度、合計2000字) 4)推薦状、もしくは照会可能な方1名の氏名・所属、連絡先 5)以上を下記まで郵送もしくはe-mailでお送り下さい。

【連絡、書類送付先】

〒263-8555 千葉市稲毛区穴川4-9-1 独立行政法人 放射線医学総合研究所 脳機能イメージング研究開発推進室 担当:大林茂 E-mail: ohbayash@nirs.go.jp TEL: 043-206-3251 FAX: 043-253-0396



インビボ 電気生理・イメージング Post-doc 研究員 (Buzsaki 研)

概要

Gyorgy Buzsaki 研 (Rutgers University - Newark, NJ, USA <http://osiris.rutgers.edu>) では in vivo での電気生理と二光子励起イメージングの手法を用いた実験に参加できるポストドクターの研究員を探しています。

研究内容

ラット・マウス海馬および皮質のニューロンの細胞体内、樹状突起内カルシウム動態をインビボの状態ではイメージングします。同時に細胞外電位を多電極記録法を用いて計測し、ネットワーク単位でニューロン群が活動する時のカルシウム及びその他イオンの細胞内動態を計測・解析してゆきます。(上記の実験は一例に過ぎず、応募者に二光子励起顕微鏡を使ったインビボでの実験のアイデア・希望等がありましたら考慮します。)

所在地

197 University Ave.  
Center for Molecular and Behavioral Neuroscience  
Rutgers University - Newark  
Newark, NJ 07102

地域

アメリカ合衆国、ニュージャージー州

職種

ポストドクター研究員

勤務体系

常勤

着任時期

なるべく早く

応募書類

1.履歴書 2.研究業績リスト 3.従来の研究内容 4.本人のことを聞ける二名の連絡先を Word (.doc)、RTF、かPDF のフォーマットで直接 [buzsaki@axon.rutgers.edu](mailto:buzsaki@axon.rutgers.edu) までメールしてください (書類は全て英語)。

応募資格

博士号取得者(見込みも含む)又は同等以上の研究経歴を有する者

イメージング、電気生理のどちらかに精通している者。



ビボ 電気生理・イメージング研究員

概要

脳科学総合研究センター神経回路メカニズムグループにおいて2004年度新たに発足する上級研究員室ではポストドクター研究員を公募します。

研究内容

電気生理的手法(パッチクランプ法、細胞内電位記録法、多チャンネル細胞外記録法)とイメージング(二光子励起イメージング)を使いニューロン・グリアの相互作用の解明を in vivo の状態で行い組み立ててゆきます。そのため、電気生理又はイメージングに精通している方を募集します。意欲的にこつこつと一緒に研究できる人を募集します。研究室の立ち上げに協力していただきます。

理化学研究所

部署名

脳科学総合研究センター

機関種別

独立行政法人

所在地 埼玉県和光市広沢2番1号  
 地域 関東・首都圏  
 職種 ポスドクター研究員  
 勤務体系 常勤  
 任期 任期つき(1年契約で評価により更新可。最長5年まで)  
 人員 若干名  
 研究分野 理学 神経生理学  
           理学 神経科学  
           理学 脳科学  
 着任時期  
 2004年5月ごろ(柔軟に対応できます)  
 応募書類  
 1.履歴書 2.研究業績リスト 3.従来の研究内容(英語、1~2ページ) 4.本人のことを聞ける3名の連絡先をEMAILかFAXで下記連絡先へ送付してください。  
 応募資格  
 博士号取得者(見込みも含む)  
 電気生理、細胞生理に精通している者。  
 イメージング、光学又は、情報工学に精通している者。

連絡先  
 Hajime Hirase, Ph.D.  
 197 University Ave.  
 Center for Molecular and Behavioral Neuroscience  
 Rutgers University -Newark  
 Newark, NJ 07102, USA  
 Tel. +1-973-353-1080 x 3130  
 Fax +1-973-353-1820  
 e-mail hirase@axon.rutgers.edu



トロント大学 ポスドク募集

Scientific environment: The Univ. of Toronto Centre for the Study of Pain is a very dynamic multidisciplinary and fast growing research centre, with labs in 5 faculties and clinical pain research facilities in affiliating hospitals, including many graduate students, postdocs and renowned senior investigators, using a

wide variety of research methods.

Description of our lab: Our lab was established at the Univ. of Toronto in 2002, after moving here from the Hebrew Univ., Jerusalem. The generous infrastructure funds that I received enabled us to establish a fullyequipped lab to run molecular genetic, behavioural and electrophysiological experiments. Our main focus is to identify pain genes and characterize the pathways where they are expressed and the mechanisms by which they produce chronic pain.

Our hypothesis:We suggest that chronic pain is triggered by a high frequency discharge of action potentials, emitted from freshly injured sensory neurons. This discharge excitotoxically destroys pain suppressing neurons in the CNS of genetically susceptible individuals. This processresults in long-lasting disinhibition of pain pathways. A few days later, the injured neurons express novel ion channels, assemble them in the soma and nerve-end membrane, thus producing abnormal sources of ongoing input that ascend to the CNS and elicit pain that never stops.

Project proposal: The project offered to you is to further characterize this mechanism, examining the commonalities between chronic pain and epilepsy. You will use electrophys., behavioural and genetic methods in genetically selected rodents. This position offers you a unique opportunity to learn in a cutting edge pain research centre and work in apleasant and supportive group. If you are interested, please email me your CV, including your academic marks, experience and coordinates of two persons who can give references for you. Preference will be given to candidates having experience in electrophysiological methods.

Ze'ev Seltzer, DMD, Professor  
 Canada Research Chair in Comparative Pain  
 Genetics  
 University of Toronto Centre for the Study  
 of Pain, and Program in Neuroscience  
 Address: Faculty of Dentistry, 124 Edward  
 Street, Rm. 372  
 Toronto, Ontario, Canada M5G 1G6  
 Tel: +(416)979-4900x4433  
 Fax: +(416)979-4936  
 e-mail: zeev.seltzer@utoronto.ca



(財)東京都医学研究機構  
 東京都神経科学総合研究所  
 研究部門長の公募について

(財)東京都医学研究機構東京都神経科学総合  
 研究所では、下記の要領により、研究部門長  
 を2名公募いたします。

記

1. 募集人員 部門長2名(管理職)(国籍不問)
2. 専門分野 システム神経科学研究分野及び神  
 経細胞機能研究分野を中心に募集するが、そ  
 の他の神経科学分野も応募可能
3. 応募資格(1)大卒後、研究歴が13年以上で博  
 士の学位を有する者またはこれに相当する能  
 力を有する者
- (2)医師で日本の医師免許取得後11年以上の者
4. 任期 9年(業績を評価した後更新可能とす  
 る。)
5. 採用予定日 平成16年8月1日以降早い時期
6. 給与 年俸制(財団規程による。)
7. 部門付研究員 流動研究員(原則任期3年)3名  
 採用可
8. 提出書類
  - (1) 履歴書(高校卒以上の学歴及び職歴)
  - (2) 業績目録
  - (3) これまでの研究概要 A4 2ページ程度
  - (4) 研究所でどのような研究を進めるかの抱負  
 A4 1ページ程度
  - (5) 主要論文7編(別刷)
  - (6) 科学研究費補助金、その他の助成金受領状  
 況一覧

9. 提出期限 平成16年4月9日(金曜日)(消印有  
 効)
10. その他
  - (1) 研究部門長の身分は、財団固有職員となり  
 ます。
  - (2) 選考の経過で、セミナー(5月下旬から6月  
 月上旬)をお願いすることがあります。
11. 提出先(書留で、封筒の表に公募書類在中と  
 朱書きしてください。)  
 〒番号 183-8526  
 東京都府中市武蔵台2-6  
 (財)東京都医学研究機構東京都神経科学総合研  
 究所 事務長
12. 問い合わせ先  
 事務室庶務係  
 電話 042-325-3881 内線 4156 FAX042-321-8678  
 Eメール shomu@tmin.ac.jp  
 ホームページ <http://www.tmin.ac.jp/>



Job Opportunity  
 ポストドクトラル  
 フェロー募集

We currently have a job opening for a  
 postdoctoral fellow. The task will be to  
 elucidate the molecular mechanism of  
 hippocampal synaptic plasticity using  
 electrophysiology, imaging, and molecular  
 biology. The applicant must have a strong  
 background in cellular level electrophysiology  
 or imaging. Also, he/she needs a high  
 motivation to learn other techniques used in  
 our laboratory, including molecular biology  
 and biochemistry. Interested applicant can  
 send CV (including publication list) and the  
 name and contact of three references at the  
 following address. Selected applicants will be  
 invited for interview.

私たちの研究グループでは現在ポスドクを募  
 集中です。私たちは、海馬シナプス可塑性の分  
 子機構を、電気生理、多光子イメージング、分  
 子生物学の各手法を組み合わせることで解析を勧めて  
 います。応募者は特に細胞レベルの電気生理学

かイメージングの経験がある事がのぞまれ、また、必要に応じ他の手法、例えば生化学なども積極的に学ぶことを期待します。ご興味のある方は、履歴書(業績リストを含む)と最低3人、参照できる方の氏名と連絡先を併せて下記まで御連絡下さい。書類審査の上、ジョブインタビューをした上で最終決定いたします。

林 康紀

Yasunori Hayashi

RIKEN-MIT Neuroscience Research Center  
The Picower Center for Learning and Memory

Department of Brain and Cognitive Science  
Massachusetts Institute of Technology E18-270

77 Massachusetts Avenue Cambridge MA  
02139 U.S.A.

Tel 617-452-2662/Fax 617-452-2573

E-Mail : yhayashi@mit.edu



## 大阪大学大学院 生命機能研究科 平成 17 年度入試説明会

日時:平成 16 年 5 月 8 日 土曜日 13 時 30 分 -16 時

場所:大阪大学 コンベンションセンター(吹田キャンパス内)

問い合わせ先:

〒 565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-3

大阪大学大学院 生命機能研究科

電話: 06-6879-4421(直通)

E-Mail: info@fbs.osaka-u.ac.jp

詳細については、下記ウェブページをご参照ください。

<http://www.fbs.osaka-u.ac.jp/>

## その他



### 神経科学ニュース、 神経科学学会ウェブサイトへの 記事の掲載について

学会への提言、研究雑感、学会見聞録、書評等神経科学の発展につながるものであればどのようなものでも結構ですでお送りください。

1.原稿は電子版のみを受け付けています。原稿は電子メール添付ファイルでお送り下さい。

(a) 受付可能なファイル形式はWord(2001以前)、EG Word(11以前)、Kacis Writerです。それ以外にも或る程度対応可能ですが、事前にご相談ください。また作成に用いたアプリケーションに関わらずHTML, rtfファイルは受付可能です。テキストファイルも可ですが、その場合メール本文に埋め込んでください。

(b) 画像ファイルはPICT、JPEGまたはTIFFファイルで、可能な限り圧縮して本文とは別のファイルでお送りください。

2.校正は行いません(お送りいただいたファイルをそのまま利用します)ので、誤りの無いことをお確かめの上、原稿をお送り下さい。

3.ニュースへの掲載は1回のみとさせていただきます。



### 神経科学ニュース 電子版パスワード

本ニュースの電子版のダウンロードにはUMINのパスワードが必要です。皆様方の会員固有のuser ID,パスワードを入力してください。半角で、大文字小文字を区別して、入力してください。

## 編集後記

ようやく寒さも緩んできた今日この頃ですが皆様いかがお過ごしでしょうか。北陸金沢ではここ数年で最大の積雪となり、交通機関の障害など、例年になく厳しい冬でした。一層春が待ち遠しいところですが、4月からは国立大学の法人化があり、見通し不透明のまま新制度に移行せねばなりません。様々な変更が収支決算として研究活動にマイナスにならないよう、十分気をつけねばならないと思います。本ニュースのトップ記事にありますように、第27回日本神経科学大会・第47回日本神経化学会大会合同大会は、大会長の村上先生・遠山先生を中心に着々と準備が進んでおり、3月1日からは参加登録・一般演題登録が始まっております。活発な会にするために会員の皆様の積極的参加をお願い申し上げます。神経科学ニュースでは、今後9月の大会まで、最新情報を盛り込んだお知らせを掲載する予定でいます。また、4月からは、ニュース編集小委員会のメンバーの一部が交代する予定ですが、神経科学ニュースをより一層充実させるため、引き続き努力してゆく所存です。また、皆様からの記事、アイデアなどお待ちしておりますので、どうかよろしく願い申し上げます。(狩野記)

発行：広報委員会  
村上富士夫（委員長）  
狩野方伸（ニュース編集小委員会委員長）  
蔵田 潔（電子化推進小委員会委員長）  
白尾智明（ホームページ担当小委員会委員長）